

『非文字資料研究』への寄稿について

人類文化の研究は、人間それ自身と人間が織り成す社会を研究することを目的とするが、その研究は文字で表現された資料を主な対象として行われてきた。しかし、人間の活動とその結果生み出されるものは、文字で記録されたものに止まらない。絵画・写真・映画・建築・民具・音声などの形で記録されたり、地形や景観あるいは人間の身体それ自身に刻み込まれたりもする。さらに、匂い・しぐさ・味覚・感触など「記録化」することが難しいものも、人類文化を構成する大事な要素である。

非文字資料研究センターは、そのような文字以外の記録及び文字では表現されにくい人間の諸活動を「非文字資料」として体系化し、それを研究する新しい方法を開発し、より包括的な人間と文化の理解にいたることを目指している。21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」（2003－2007年度）以来、わたしどもは、その目的を達成するために＜図像＞＜身体技法＞＜環境・景観＞のなかから研究課題を絞り込み、共同研究を展開してきた。この共同研究は、歴史学・民俗学はもとより、文化人類学、比較文化論、美術史、建築史、災害史、情報科学などを専門とする内外の研究者によって支えられてきた。

このように多様な学問的広がりをもつ非文字資料は、世界各国の地域文化の諸相を具体的かつ可視的に示す絶好の資料であるとともに、資料自体が多層的な時代・地域において蓄積されてきた背景をもっているため、研究方法としても比較歴史的な視点を求めるものであり、ひいては、人類文化研究の総合的・学際的な発展の可能性を有している。

しかし、研究資料の分析指標の設定、意味の解説という困難な作業には、研究概念と成果の普遍性が求められる。また世界共通の標準的・普遍的な研究資料の資料化・体系化を行うには、世界各地の関連学問分野の研究者による相互検証が不可欠である。本センターの研究活動においても、関係研究者との共同作業を必要としている。

『非文字資料研究』は、世界の各地域において活躍されている非文字資料研究者からの寄稿を歓迎し、本誌が多分野にわたる研究者相互の学問的遭遇の場として発展するとともに、人類文化の豊かな研究に寄与することを期待する。

寄稿をご希望の方は、当センターのホームページをご覧ください、執筆要項等の詳細をご確認ください。

エントリー募集期間：前期 1月～3月 後期 7月～9月

原稿締め切り：前期 3月末 後期 9月末

※原稿ご提出後、査読があります。

エントリー用紙：当センターのホームページよりダウンロードしてください。

執筆要項：当センターのホームページよりご確認ください。

表記・書式細目：当センターのホームページよりご確認ください。

エントリーシートの提出・お問い合わせ先：非文字資料研究センター

E-mail: himoji-info@kanagawa-u.ac.jp

ホームページ: <http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/>

運営委員会

2020 年度

- 第 1 回 2020 年 4 月 22 日 (1)2019 年度決算報告について(2)2020 年度予算 (案) について(3)2020 年度特別予算について (通知 2020 年 3 月 25 日付)(4)2020 年度「奨励研究」制度の継続実施について (お願い)(5)センター研究員人事について (客員研究員 1 件、研究協力者 1 件)(6)スタンフォード大学フーヴァー研究所からの企画について(7)日本常民文化研究所 Facebook、Twitter の公式アカウントへの参加について
- 第 2 回 2020 年 5 月 27 日 (1)2019 年度決算報告について(2)2020 年度予算 (配分案) について(3)『非文字資料研究に飛び立つー海外招聘派遣事業報告集ー』の神奈川大学学術機関リポジトリへの登録に伴う許諾処理の遡及手続きについて(4)Zoom 研究会の開催の運用と謝礼等の支払いについて (案)
- 第 3 回 2020 年 6 月 24 日 (1)非文字資料研究センター調査委員会からの調査結果について(2)2020 年度海外提携研究機関との招聘・派遣事業について(3)『マルチ言語版絵巻物による日本常民生活絵引』編集再稼働について
- 第 4 回 2020 年 7 月 29 日 (1)センター研究員人事について (新規研究員 3 名)(2)論文不正に対する処分内規 (案)(3)2019 年度奨励研究成果論文の査読分担について
- 第 5 回 2020 年 9 月 30 日 (1)論文不正に対する処分内規 (案)(2)奨励研究制度の継続願いに対する回答について(3)JASSO 海外留学支援制度について(4)センター研究員人事について (新規研究員 1 名)(5)非文字資料研究叢書 4 について
- 第 6 回 2020 年 10 月 28 日 (1)2020 年度予算執行状況について (全体) / 2020 年度共同研究班別(2) 2021 年度予算 (案) について(3)「2020 年度共同研究費」予算の追加および返上申請について(4)論文不正に対する処分内規 (案) について(5)セインズベリー日本藝術研究所との覚書更新に際する新規提案について(6)『非文字資料研究』22 号投稿論文 (河野通明先生) の査読者選出について
- 第 7 回 2020 年 11 月 25 日 (1)論文不正に対する処分内規について(2)論文不正に対する調査委員会内規について
- 第 8 回 2020 年 12 月 23 日 (1)二重投稿論文に対する処分について(2)セインズベリー日本藝術研究所への招聘・派遣事業の打診について
- 第 9 回 2021 年 1 月 27 日 (1)2021 年度研究班体制 (人事委嘱手続き) について(2)論文不正に対する処分内規 (案) について(3)論文不正に対する調査委員会内規 (案) について

研究員会議

2020 年度

- 第 1 回 2020 年 4 月 22 日 (1)2019 年度決算報告について(2)2020 年度予算 (案) について(3)2020 年度特別予算について (通知 2020 年 3 月 25 日付)(4)2020 年度「奨励研究」制度の継続実施について (お願い)(5)センター研究員人事について (客員研究員 1 件、研究協力者 1 件)(6)スタンフォード大学フーヴァー研究所からの企画について(7)日本常民文化研究所 Facebook、Twitter の公式アカウントへの参加について
- 第 2 回 2020 年 5 月 27 日 (1)2019 年度決算報告について(2)2020 年度予算配分 (案) について(3)『非文字資料研究に飛び立つー海外招聘派遣事業報告集ー』の神奈川大学学術機関リポジトリへの登録に伴う許諾処理の遡及手続きについて(4)Zoom 研究会の開催の運用と謝礼等の支払いについて (案)
- 第 3 回 2020 年 7 月 29 日 (1)センター研究員人事について (新規研究員 3 名)
- 第 4 回 2020 年 10 月 28 日 (1)2020 年度予算執行状況について (全体) / 2020 年度共同研究班別(2) 2021 年度予算 (案) について(3)「2020 年度共同研究費」予算の追加および返上申請について(4)研究員人事 (新規登録) について(5)論文不正に対する処分内規 (案) について(6)セインズベリー日本藝術研究所との覚書更新に際する新規提案について
- 第 5 回 2021 年 1 月 27 日 (1)2021 年度研究班体制 (人事委嘱手続き) について

研究会

研究班研究会

2020 年度

第 2 班 中国近世・近代における生活・風俗の研究

2021 年 2 月 19 日 (Zoom 会議)

第 3 班 〈メディア〉と〈身体〉から見る 20 世紀ヨーロッパのポピュラー・カルチャー

2020 年 9 月 1 日 (Zoom 会議)

第 4 班 東アジア開港場 (租界と居留地) における都市の発展と建築調査

第 64 回研究会 2020 年 5 月 14 日 (Zoom 会議)

第 65 回研究会 2020 年 7 月 18 日 (同上)

第 66 回研究会 2020 年 8 月 26 日 (同上)

第 67 回研究会 2020 年 10 月 30 日 (同上)

第 68 回研究会 2020 年 12 月 18 日 (同上)

第 69 回研究会 2021 年 2 月 19 日 (同上)

第 70 回研究会 2021 年 3 月 19 日 (同上)

第 5 班 「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社

2020 年 8 月 29 日、10 月 3 日 (両日共 Zoom 会議)

現地調査

2020 年度

調査テーマ	日程	場所	調査メンバー
戦時下日本の国策紙芝居研究	2020 年 11 月 6 日～11 月 7 日	浅間縄文 ミュージアム	大串 潤児
中国近世・近代における生活・ 風俗の研究	2020 年 11 月 27 日～28 日	大阪大学総合学術 博物館	中林 広一
戦時下日本の国策紙芝居研究	2020 年 11 月 29 日	川越市立博物館、 小山市立博物館	大串潤児・原田広・ 新垣夢乃

編集後記

今号で報告された研究会は 2020 年度前半に行われたものが中心ですが、いずれもオンラインで行われたものとなりました。2020 年から世界を席卷している Covid-19 により、フィールドワークを基調とする研究や、研究者どうしの交流は困難な状況に直面しています。しかしこうした逆境の中でも、本センターの研究会が続行されていることが確認できるとともに、スライドフィルムや絵はがきといった資料の紹介・分析は、こうした時期だからこそ腰を据えてできる研究であると思います。2 編の研究エッセイは非文字資料研究の広がりを感じさせてくれます。時代に翻弄されることなく、着実に歩を進めている非文字資料研究に、これからもご注目ください。

なお、末筆ながら「非文字資料研究センター」の英語名について、運営委員会での検討の結果、Research Center for Nonwritten Cultural Materials を正式名称とすることにいたしました。一方、News Letter をはじめ、The Research Center... という表記も見られますが、すでにこの名称で流通しているものについては、そのままの形とさせていただくことになりました。今後、国際的な情報発信の際にご留意いただければ幸いです。(熊谷謙介)

表紙紹介

表紙の写真は、高木幹朗研究室が横浜の河川・運河を撮影したスライドフィルムの一枚で、1976 年ごろの派大岡川を写したものです (資料番号: T-76-74)。派大岡川は、幕末の太田屋新田 (現在の関内地区の一部) の開墾によって形成された河川で、水路として利用されました。画像右手に見える建物は中区吉浜町にあった横浜掖済会病院です。1896 年に桜木町の横浜海員寄宿所内に誕生した医療施設を前進とする横浜掖済会病院は、1911 年に此处に移りました。画像奥に見える橋は、堀川に架かる「西の橋」です。西の橋は関東大震災の復興事業で 1926 年にこの場所に架け替えられ、現在に至ります。画像からは、西の橋の上流で派大岡川と中村川が合流している様子がわかります。この写真が撮られた後、1977 年に派大岡川は埋め立てられ、首都高速道路の建設が進みます。1981 年には横浜掖済会病院が移転。1980 年代には西の橋の上空に首都高速道路が架かります。写真は、現在では首都高速道路に覆われてしまったこの付近が、確かに河川運河だったことを伝えています。(松本和樹)